

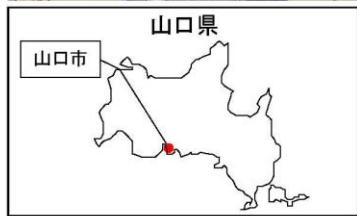
3 農事組合法人 二島西(山口県山口市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号、みなちから	10.7ha	811kg/10a	273kg/10a(538kg/10a)※

※作柄調整後の 地域の平均単収

【経営概況】	
○ 平成20年11月に、二島・上田・大里の3集落にまたがる圃場整備事業を契機に、地域農業を担う経営体として設立	
○ 代表理事:福江 豊	
○ 組合員:146名	

【作付品目】	
○主食用米 ヒノヒカリ	11.3ha
○加工用米 日本晴、中生新千本	50.0ha
○飼料用米 北陸193号、みなちから	10.7ha
○小麦、大豆、飼料作物	97.6ha
○野菜(キャベツ、玉ねぎ等)	14.6ha



【取組のきっかけ】	
○ 法人の収益確保を模索する中、交付金による安定収入が得られる「飼料用米」に着目。実需者との協議により、平成22年産から「モミロマン」で飼料用米生産に取り組み始める。	

【取組概要】	
○ 平成26年産から、より多収性で耐倒伏性に優れる「北陸193号」に変更するとともに、平成30年産からは新品種「みなちから」を導入し、主食用米等との作期分散を図っている。また、多収品種圃場の固定と乾燥・調製施設を主食用米とは別の施設を使用することで、コンタミ防止を徹底している。「北陸193号」は、粒の脱粒性が高いため、圃場の落水から稻刈までの期間を短くして脱粒を防ぐとともに、主食用米品種に比べて株張りが良すぎて草茎が固いため、高い部分を低速で刈り取ることで、収量アップと収穫時のコンバイン負荷の軽減に繋げた。	
○ 生産コスト低減を図るため、①植栽密度を地域の慣行60株/坪から50株/坪に減らす疎植栽培により、資材費、労働力を低減、②実需者から鶏糞堆肥の無償供給を受ける耕畜連携の取組と、③収量コンバイン導入により圃場毎に収集したデータから、適切な施肥設計を行うとともに、基肥・追肥に安価な単肥(硫安)を使用することによって肥料費を低減、④除草剤の移植時同時散布により労働力を軽減、⑤圃場の均平化により除草効果を最大限に発揮させ管理労力を低減、⑥実需者へフレコン出荷することで包装容器代及び運搬経費の削減、等の取組を実施。	
○ 実需者や当該実需者に出荷する他の飼料用米生産者と連携し、生育診断等を実施する現地圃場視察会等を行うことにより、生産者同士が切磋琢磨し、単収向上を目指している。	

4 佐藤 公徳・文親 (青森県つがる市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
みなゆたか	2.6ha	780kg/10a	141kg/10a(639kg/10a)※

※作況補正後の 地域の平均単収

【経営概況】	
○ 家族経営(父子) (その他繁忙期に臨時雇用)	
○ 米単作の専業農家、大豆1.8haは大豆生産組合に作業委託	

【作付品目】	
○主食用米 まっしぐら、青天の霹靂	7.1ha
○飼料用米 みなゆたか	2.6ha



佐藤公徳 父:文親



【取組のきっかけ】	
○ 水稲の規模拡大に伴い、作期の分散を図るとともに経営の安定化を図るため、平成28年産から飼料用米に取り組む。	

【取組概要】	
○ 発酵鶏ふんを施用し、化学合成肥料の使用量の低減と土づくりを実施。	
○ 慣行と比較して1箱当たりの播種量(170g/箱)を多くすることで、1株当たりの移植本数を増やし、穗数を確保。	
○ 元肥は、移植時に肥効調節型肥料(窒素10.0kg/10a)を側条施肥。	
○ 追肥は、幼穂形成期を基本に、葉色や生育状況に応じて、2回程度実施(窒素2.0~4.0kg/10a)。追肥には即効性が高く安価な尿素を利用することで資材コストを低減。	
○ 自宅の乾燥調製施設をフレコン対応させ、JAつがるにしきた倉庫に運送。フレコン輸送することで、包装資材費及び労働費を削減。	
○ 29年産から主食用米の一部(2ha)で直播栽培を導入し、高単収(600kg/10a程度)を実現。単肥を利用した施肥や直播栽培の更なる拡大も検討しており、地域の担い手として栽培技術向上の手本となっている。	